

Aēsop.



Aesop Fukuoka Activation

概要

2022年12月から2023年6月まで、イソップはこの地域初の直営店として長年親しんだ福岡天神の空間にて、一連の展覧会を開催いたします。

今回、花田伸一氏によって企画された分野横断的なビジュアルアートプログラムは、存在の美しさ、内面の在り方、そして人間の経験の普遍性について考察します。会期中6ヶ月間にわたり、4つの個展が開催され、内省への好奇心、自己変革から豊かな可能性まで、それぞれが精神の特異的な一面に捧げられます。このひとつひとつの個展において、県内の新しい声や著名な実践者を代表するアーティストとキュレーター一間の共同作業による探求が繰り広げられます。

花田伸一氏は自己とその周りにあるものが調和することについて以下のように思索します。

キュレーター:花田伸一氏 (Shinichi Hanada)

1972年福岡県福岡市生

北九州市立美術館学芸員、フリーランスを経て2016年より佐賀大学芸術地域デザイン学部准教授。

主な企画『6th北九州ビエンナーレ～ことのはじまり』『千草ホテル中庭PROJECT』『ながさきアートの苗プロジェクト2010 in 伊王島』『街じゅうアート in 北九州2012 ART FOR SHARE』『ちくごアートファーム計画』。企画協力『第5回福岡アジア美術トリエンナーレ2014』『釜山ビエンナーレ2014特別展』他。韓国、タイ、ラオス、カンボジア、ベトナム美術調査。

参考資料：[こちら](#)



花田伸一氏 Q&A

本展覧会のテーマはどこからアイデアが湧いてきましたか。

今回のプロジェクトを企画するにあたり、抽象的な視点から「美」を見つめなおしたいと思いました。展示作品は、物質的な要素ではなく内面を掘り下げること、内なる自分の複雑性をあらわにする場所に私たちをいざない、新しいものの見方を提示します。

今回のプロジェクトではどのようなアプローチを取られましたか。

本展覧会は大きく4つの章で構想されており、各章において福岡のカルチャーシーンとつながりのあるアーティストとキュレーターが協同して1つのテーマに向き合います。その中で、多様な視点と芸術的な表現手段を結びつけることで「美」の可能性を広げます。本展覧会を通じて人々が地域のアートエコシステムに関心を持ち、引き続き身近なギャラリーや美術館で創造的な探求の旅を継続していただきたいと願っています。

来場者にどのような体験をしていただきたいですか。

感受性よりも合理性や効率が優先される社会で、私たちはときに息苦しく感じることがあります。そのような中で、人は環境に対する無意識の反応として、自分の感情を抑圧してしまうかもしれません。私は自らの仕事を通じて、人々を内省へといざない、感覚に再びつながるための機会をもたらす、いくなれば単調な日々から抜け出すための回復体験としての芸術文化を探求しています。
